

# 学校だより

12月号



## 自己肯定感の向上

校長 柴田 雅之

学校から見える富士山の白い部分が、日増しに広がってきています。朝のあいさつ時の息も、白くなる日が増えてきました。自然や子どもたちの服装などが、秋までの彩から冬のモノトーンへと移ろう中に季節の変化を感じます。これから寒くなっていきます。インフルエンザなどの感染症が流行り出していますが、子どもたちの体調に気を付けながら、教育活動を着実に進めていきます。保護者・地域の皆様もくれぐれもお身体にご留意ください。

そんな中、3年生が体育でサッカーをしていました。川崎フロンターレの出前授業でしたが、コーチの方々が感心するほどよく動いていました。とても寒い日だったのですが、汗をかきながら頑張っていました。さすが子どもは風の子です。縮こまって丸めていた背中を思わず伸ばしました。

運動会では、子どもたちへの温かい拍手とご声援ありがとうございます。また、片付けの際には昨年以上に大勢の方にご協力いただき感謝しております。今年の運動会は、計画の段階で「みんなでつくり上げていく運動会」「子どもたち一人一人に輝く場がある運動会」というテーマを、職員一同で共通認識してからスタートしました。準備や練習のときから、このテーマを大切にすればするほど、子どもたちは主体的に取り組んでいったように思います。白組団長の喜ぶ表情と赤組団長の涙はとても対照的でしたが、それぞれの組のみんなの思いが表れていました。当日まで一生懸命頑張ったからこそ溢れ出た最高の笑顔と涙だったと思います。保護者の皆様から頂いた感想には、そのような学校の意図を感じ取ってくださったものがたくさんあり、とても嬉しく思いました。とくに、高学年の児童が係として頑張る姿をしっかりと見てくださっていたことを、学校としてはありがたく思っております。このことは高学年の子どもたちにしっかりと伝えたいと思います。大きな花丸を子どもたちにあげることができました。ご家庭でも花丸をもらった子がいるようで、子どもも、家庭も、地域も、学校もみんなにとって良い運動会になりました。ご理解ご協力ありがとうございます。

4年生が、学芸大会に向けて練習に取り組んでいます。学年みんなで一つの劇を作ることはとても価値のあることです。先日、どれくらいできているのかなと見に行くと、かなり仕上がっていてびっくりしました。昨年の50周年の式典での経験も生かされているのでしょう。楽しそうに、そして真剣に練習に取り組む姿に感心しました。

先日、教育委員会から話がありました。学力学習状況調査の結果から、この10年で「自分にはよいところがあると思う」のポイントが10%上がっているということでした。これまで自己肯定感の低さがよく話題となっていましたが、川崎市の子どもたちの自己肯定感は着実に上がっています。学校としては、「子どもの話を真剣に聞く」「自ら選択する機会を作る」「結果だけでなく過程を褒める」「小さな成功体験を重ねていく」「よさや頑張りを認めたり褒めたりしながら価値づける」「感謝の言葉を伝える」などを意識しています。自己肯定感の高まりとともに「やる気が出る」「主体的に行動できる」「失敗を恐れず挑戦できる」「コミュニケーション能力が向上する」「幸福度が高まる」などの効果があるといわれています。千代ヶ丘小学校では、これからも子どもたちの自己肯定感が高まるような教育活動を行っていくことを心がけていきます。

※あっ、そうなの！「麻生区長寿日本一」（麻生区地域みまもり支援センターより）

仲間はずれやいじめは人権侵害ですね。最近では、インターネット上の人権侵害も問題になっています。麻生区では、「長寿日本1」のその先に、区民の幸福があると思っています。人権問題を自分事と捉え、お互いの人権を尊重しあえる街にしていきたいですね。